

Associations between socioeconomic status and the prevalence and treatment of hypercholesterolemia in a general Japanese population: NIPPON DATA2010. (研究論文の紹介)

著者	三浦 克之
発行年	2018-02-01
その他の言語のタイトル	社会的要因と高コレステロール血症の有病・治療との関連 NIPPON DATA2010より シャカイテキ ヨウイン ト コウコレステロールケツショウ ノ ユウビョウ チリョウ トノ カンレン NIPPON DATA2010 ヨリ
URL	http://hdl.handle.net/10422/00012411

最新研究の紹介

社会的要因と高コレステロール血症の有病・治療との関連 NIPPON DATA2010より

論文タイトル

Associations between socioeconomic status and the prevalence and treatment of hypercholesterolemia in a general Japanese population: NIPPON DATA2010.

掲載誌

Journal of Atherosclerosis and Thrombosis

[doi:10.5551/jat.42531](https://doi.org/10.5551/jat.42531)

執筆者

Fujiyoshi N, Arima H, Satoh A, Ojima T, Nishi N, Okuda N, Kadota A, Ohkubo T, Hozawa A, Nakaya N, Fujiyoshi A, Okamura T, Ueshima H, Okayama A, Miura K, NIPPON DATA2010 Research Group

概要

長期追跡研究“NIPPON DATA 2010^{*1}”の分析から、男性において高コレステロール血症の有病に経済的要因が、治療状況に婚姻状態が影響していることが示唆されました。

本研究では、NIPPON DATA 2010のうち、必要なデータに欠損のない男性999人(平均年齢59.1歳)、女性1,418人(平均年齢57.2歳)の計2,417人を対象に分析を行い、血清総コレステロール240mg/dl以上若しくはコレステロール低下薬の服用者を有病者、有病者の中でコレステロール低下薬を服用していない者を未治療者と定義しました。社会的要因は、婚姻状態、就業の有無、学歴、世帯等価支出(世帯支出を世帯構成員の平方根で除した額)の4項目とし、男女別に比較しました。

有病者は、男性において21.5%(うち55.4%が未治療)、女性では31.0%(同55.1%)でした。多重ロジスティック回帰分析の結果、男性の有病オッズ比は世帯等価支出『第2五分位以上(支出額を順に並べ対象人数で5等分した際、低い方から20%を超える群)』を基準とした『第1五分位(同20%以下の群)』で1.66倍(95%信頼区間:1.16-2.38)、未治療オッズ比は『既婚群』を基準とした『独身群』で2.53倍(95%信頼区間:1.05-6.08)と有意な差をみとめました。女性は、有病・治療ともに、社会的要因とも関連をみとめませんでした。

これらの知見は、今後の我が国における、健康格差が及ぼす高コレステロール血症への影響について保健指導や医療政策などの施策を検討する際に、考慮すべき要因となると考えられます。

^{*1}NIPPON DATA 2010: 無作為抽出された日本全国300地区の一般住民に対して実施された平成22年国民健康・栄養調査の参加者のうち、20歳以上の男女2,898人対象とした長期追跡研究。NIPPON DATA研究は、厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)(指定型)「社会的要

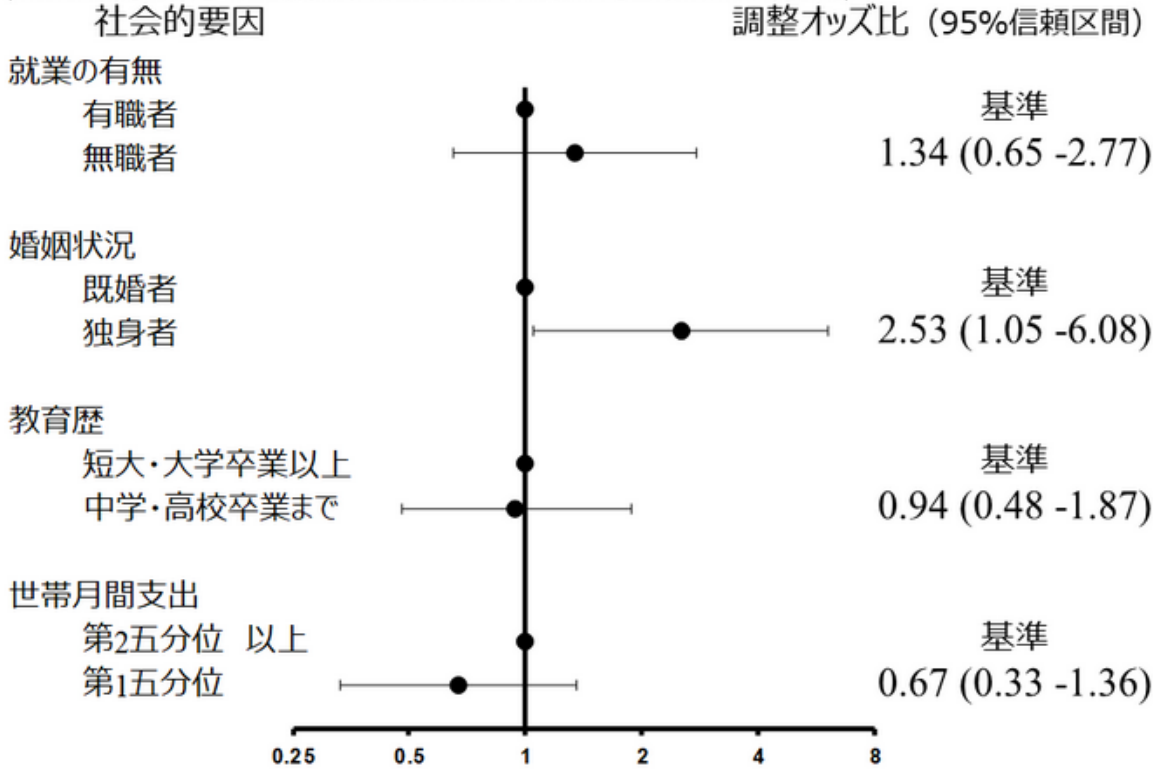
因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究: NIPPON DATA80/90/2010 (研究代表者: 三浦克之)」として実施されている。

ウェブサイト: <https://hs-web.shiga-med.ac.jp/Nippondata/NIPPONDATA2010/>

高コレステロール血症未治療との関係

平成22年国民健康・栄養調査参加者を対象とした追跡研究NIPPON DATA 2010のベースライン時横断解析の結果

(社会的要因別の高コレステロール血症の未治療オッズ比。オッズ比は、年齢・糖尿病・高血圧既往の有無で調整した値)

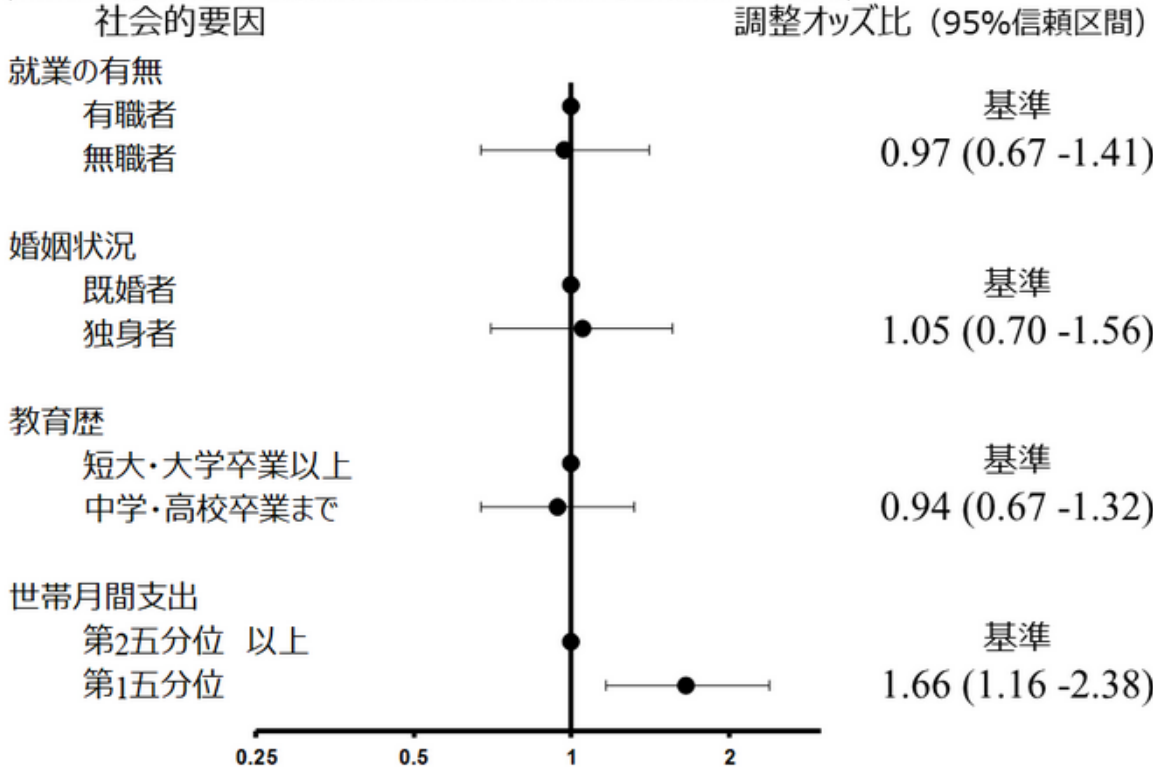


独身男性は高コレステロール血症の治療を受けていない傾向が強い

高コレステロール血症有病との関係

平成22年国民健康・栄養調査参加者を対象とした追跡研究NIPPON DATA 2010のベースライン時横断解析の結果

(社会的要因別の高コレステロール血症の未治療オッズ比。オッズ比は、年齢・糖尿病・高血圧既往の有無で調整した値)



男性の高コレステロール血症に経済要因が影響している



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

[交通・アクセス](#) | [キャンパスマップ](#) | [このサイトについて](#) | [お問い合わせ](#) | [関連リンク集](#) | [サイトマップ](#)